

第11回

# 全国奴まつり

# 谷地びんがまつり

出演団体

- ◆ 北海道・福島大神宮祭礼行列保存会(福島町)
- ◆ 長野県・本町三丁目大行列保存会(飯田市)
- ◆ 山形県・河北町「谷地奴」保存会(河北町)

2017  
9月16日~18日



|    |          |        |         |          |         |           |
|----|----------|--------|---------|----------|---------|-----------|
| 山形 | 山形新幹線    | 天童     | 10分     | さくらんぼ東根駅 | タクシー15分 | 河北町<br>谷地 |
|    | 左沢線      | 寒河江    | 25分     | タクシー15分  | バス20分   |           |
| 山形 | 山形空港     | 山形JCT  | タクシー10分 |          |         | 河北町<br>谷地 |
|    | 山形自動車道   | 寒河江I.C | 20分     |          |         |           |
|    | 東北中央自動車道 | 東根I.C  | 7分      |          |         |           |

お問い合わせ先

山形県河北町商工観光課 TEL(0237)73-5162 FAX72-7333  
 (一社)河北町観光協会 TEL(0237)72-3787 FAX73-3500  
 谷地八幡宮 TEL(0237)72-2149 FAX72-2150

どんがまつり

2017.6

## まつり日程

### 9/16(土)

奴・囃子屋台巡演  
 谷地舞楽奉奏 [14:30~]  
 夜遊の舞楽 [19:50~]  
 御神輿渡御 [20:20~]



囃子屋台巡演

### 9/17(日)

奴・囃子屋台巡演  
 御神輿還御 [12:30~]  
 谷地の舞楽奉奏 [14:45~]  
 谷地八幡宮例大祭 [17:15~]



神輿還御



全国奴まつり

### 9/18(月)

囃子屋台巡演  
 献茶式・茶会(県内唯一)  
 各種奉納行事  
 競演開会  
 全国奴まつり  
 囃子屋台競演  
 ※どんがホール広場周辺



べにのすけ



Twitter



Facebook



# 谷地のどんがまつりに ひめられたもの

## 紅花で京大阪と

### 結ばれた町

河北町谷地は、最上川中流の緑豊かな田園地帯に静かにたたずむ文化の濃い町である。江戸時代には米と紅花の大集積地として栄えた町であった。ここに集積した米と紅花は最上川を酒田へ下り、そして日本海沿岸ルートを敦賀に上陸、琵琶湖・淀川を經由して京都・大阪に送られたという。それゆえ、神輿行列を彩る囃子屋台のお囃子には、藩政時代の記録によると、見物の人々が最上郡中より十万人もあったという。

紅花による財力を恐れた幕府は当地方谷地八ヶ村をそれぞれ天領、上山領、戸沢領に三分割し帰属せしめた。ときの英知はむしろこの制度をさかてに取、三年に一度の当番制として祭典一切の所役をつとめ、さらに大当番を置いて差配をとりもっている。三年に一度の当番は、町内間の競争心をあおり、いやがうえにもボルテージを高めている。この間の取り決めは細部にいたるまで非常に厳格に決められており、今日もきびしく引き継がれている。

### まつりのみどころ

祭り初日は、境内では舞楽が奉奏され、かがり火が灯る夜は、清浄な闇の中で夜遊の舞楽が厳かに行われる。二日目には、神輿還御の行列が、華やかにまちへ繰り出し、先頭で露払いを務める奴は、その勇壮な振り姿とユニークな掛け歌入りで、観客を楽しませてくれる。三日日には、祭りのファイナーレを全国奴まつりと光の演出で飾る。各町内会の高張提灯と弓張提灯がろうそくの明かりを灯し、提灯屋台が幻想的な雰囲気をもし出す。奴を先頭に、三日間練り歩いた囃子屋台が、一堂に会してお囃子と歌踊りをあでやかに競い合い、クライマックスを迎える。



かけ歌もユニークな男士の誉れ高い奴



囃子屋台



陵王

## 眼前に見る古代の舞の衝撃

谷地の舞楽は、谷地八幡宮の神職をつとめる、林家が伝承する舞楽である。林家の祖「林越前政照」は大坂四天王寺の楽人であった。平安初期の貞観二年（八六〇）山寺開創のうちに僧円仁（慈覚大師）に随従して出羽に下り山寺に舞楽を司どったと伝えられている。平安中期には、東北最大の古刹慈恩寺と江戸期より谷地八幡宮にも舞楽を司どり今日に至っている。伝承の舞楽の最大の特徴は、早く地方に下ったため貴族による改作を殆ど受けておらず、より古代の様式を多く伝えていると評価されている。